



ライフワークは、神道文化の国際発信です！



真弓 明久 さん

神道文化学部124期卒
一般企業勤務

真弓さんはこんな学生でした！ 武田 秀章 教授



真弓さんは、その神出鬼没の行動力によって、わが学部の社会貢献・国際貢献を力強く推し進めてくれました。次代の神道文化の担い手として、持ち前のフットワークとアイデア力を活かした意欲のご活躍を、心から期待していません。



高校3年の時、特に学びたいと思う学問がなかったため、あえて浪人する道を選びました。迷いや不安はありませんでした。浪人時代の模索期間を経て、自分のルーツである「神道」の学びへの志が、しっかりと固まるに至ったのです。

正科はもちろん、課外活動にも一生懸命取り組みました。体育連合会水泳部の活動で、ひたすら心身を鍛錬しました。大学の伝統行事・観月祭では、ご縁があって「人長舞」をご奉仕させていただきました。あの時の緊張感と昂揚感は、今でも忘れられません。

また一般社団法人心游舎の方々と、新潟での「米作りワークショップ」立ち上げに関わらせていただきました。心游舎は、日本文化体験のワークショップを主催したり、体験プログラムを提供している団体です。さらに内閣府が行う「日本・韓国青年親善交流事業」で韓国を訪れました。同世代の韓国の方々に、神道や日本文化などをレクチャーし、意見交換を行いました。神道文化を世界に向けて発信することの大切さを痛感した経験でした。

卒業後は、本学の大学院(前期課程)に進学しました。神道や日本文化に関わる自らの「発信力」に、一層磨きをかけようと思ったからです。指導教授の石井研士教授は、学部時代、国際交流事業への参加に当たり、私の背中を押してくださった恩師でした。

前期課程修了後は、神社の神符や授与品等を奉製する会社に入社しました。現在は、勤務の傍ら、内閣府青年国際交流事業のOBOGで立ち上げた団体、一般社団法人KOREWOKINIの一員としても活動を行い、日本文化や宗教文化に関わる体験型ワークショップ企画・運営を担当し、若者たちの「次の一歩」を応援するような取り組みを行っています。

思えば、神道文化学部のユニークな「学びと経験」こそが、卒業後の私の多様な活動の礎となりました。志願者の皆さん、神道文化学部でたくさんのごことに挑戦しましょう！自分の幅を、思い切って広げましょう！

平成26年観月祭 舞楽「人長舞」



この学部でしか学べないことがある

神道文化学部



令和4年観月祭 舞楽「人長舞」

令和6年度 総合型選抜、神道学専攻科、別科神道専修（Ⅰ・Ⅱ類）入試日程

入試制度	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表	入学手続期間(消印有効)
神道・宗教特別選考(Ⅰ期) [神社本庁包括下の神社]及び[神道系教団]の後継者を対象とした入試です。	9/20(水)~9/26(火)	1次:書類選考 2次:10/22(日)	1次:10/10(火) 2次:11/1(水)	11/1(水)~11/9(木)
神職養成機関(普通課程)特別選考	9/20(水)~9/26(火)	10/22(日)	11/1(水)	11/1(水)~11/9(木)
公募制自己推薦(AO型) [神道文化学部でぜひとも神道文化・宗教文化を学びたい]という強い意欲を抱く志願者を選抜します。	10/2(月)~10/6(金)	1次:書類選考 2次:11/12(日)	1次:10/25(水) 2次:11/22(水)	11/22(水)~11/29(水)
神道学専攻科 4年制大学を卒業した神職子女が、1年間で神職資格(明階検定合格、正階授与)取得を目指す課程です。	11/1(水)~11/6(月)	11/26(日)	12/6(水)	12/6(水)~12/13(水)
神道・宗教特別選考(Ⅱ期)[夜間主] [神社本庁包括下の神社]及び[神道系教団]の後継者を対象とした入試です。	2/5(月)~2/8(木)	1次:書類選考 2次:3/2(土)	1次:2/21(水) 2次:3/11(月)	3/11(月)~3/18(月)
別科神道専修Ⅰ類・Ⅱ類 高等学校の卒業者が、神職資格を目指す課程です。	2/5(月)~2/8(木)	3/2(土)	3/11(月)	3/11(月)~3/18(月)

*出願資格や「入学試験要項」など詳しい入試の情報については、國學院大学ホームページをご覧ください。本学入学課(電話03-5466-0141)へお問い合わせください。志願される方はお早めに「入学試験要項」をご入手ください。

神道・宗教特別選考を志望する方々へ

本学では、(1)神社本庁所属神社の神職、またその家系の子女で、継承者となる方々もしくは、(2)神道系教団所属者の子女で、将来、後継者となる方々を対象にして、「神道・宗教特別選考」という入試制度を設けています。詳細は國學院大学のホームページをご覧ください。

オープンキャンパス(渋谷キャンパス) 8月5日(土) / 6日(日) / 26日(土)

*学年は取材時のものです。

もっと日本を。もっと世界へ。





「学部で学んできた祭祀伝統の一翼を担いたい…」そんな思いで、奉職を決意しました



折原 祥平 さん

神道文化学部4年
奉職内定

折原さんはこんなゼミ生！
ゼミ担当 遠藤 潤 教授



折原さんは、ゼミの発表テーマに神前結婚式を選んで研究を進めました。これまであまり扱われることのない史料の調査のため、学外の公共機関を訪問することもありました。また、神道と人生儀礼という問題関心から展開して、埼玉県北部の伊勢講についても調査し、論文にまとめました。その精力的な姿は、仲間たちへのよい刺激になっていたと思います。



私をはじめ神道文化学部を知ったのは、高校2年生の時です。歴史が好きだった私に、当時の担任の先生が、入学を勧めてくださいました。そもそも神道文化学部は、世界でただひとつの学部です。神社のご社殿を模した祭式教室をはじめ、雅楽器や装束など、いつも「本物」に触れることができます。私自身も、初めて本物の雅楽器や装束に触れた時の感動は、今でも忘れられません。入学以来、神道系サークル「青葉雅楽会」で雅楽器「箏」の奏法を、同じく「萌黄會」で装束の著装法を、懸命に修練してきました。

本学の一大行事「観月祭」では、1年次は舞楽の管方音頭・浦安舞の句頭を、2年次は管絃の音頭を、それぞれ任せていただきました。4年次にはこれまでの経験を活かし、後輩たちを支える裏方に回ってお手伝いしました。演者として友人たちと舞台上に上がった時のあの高揚感、舞台が無事終わったときのしみじみとした感動は、共に学

生活最高の思い出です。

この4年間、神道について専門的に学び、私の人生は大きく変わりました。在学中、令和の御代替りがあり、神道を学んでいればこそ、御代替りで国家国民の安寧を祈られる陛下の御姿、ご奉仕する方々の姿に、深く心を打たれました。「私自身も、ぜひあのような祭祀伝統の一翼を担いたい、神祭りの道に連なりたい…」そんな思いで、奉職を決意したのです。

卒業後は、日々御祭神に奉仕し、神と人との仲を執り持つこととともに、神社が歩んできた歴史を人々に伝えるという「人と歴史の仲執持」としてもご奉仕していきたいもの願っています。

志願者の皆さん、この学部で、神道という日本古来の精神文化を、世界でただひとつのユニークな学びを、身をもって経験してみたいか、か。



遠藤 潤 教授

日本宗教学

遠藤先生はこんな先生！
ゼミ生 折原 祥平 さん



遠藤先生は、ご自身のご専門である平田篤胤研究はもちろん、世界の様々な宗教文化に造詣が深く、どのような質問に対しても、いつもの確かな回答をしてくださいます。また非常に面倒見が良く、私が公文書を閲覧しに行った際にも、資料の扱い方などを懇切に教えてくださいました。いつも優しい「学びの兄」のような先生でした。



私は宗教学を専門としています。高校生の頃、最初は大学で哲学を勉強しようと考えていましたが、より広範な人々の信念や考えを知りたいと思うようになりました。すると、宗教という対象が魅力的に見えてきて、途中で宗教学に進路を変更しました。

気づいてみれば、世の中にはさまざまな宗教があり、それとともに人々は多様な考えを抱いているわけです。宗教学の対象は、古今東西、とても広いのですが、自分は近世・近代の日本の宗教を中心に研究することにしました。

大学で宗教学を専門として学び始めたときに、日本社会にさまざまな死生観があることに興味を引かれるようになり、そこから展開して、死について特徴ある考えを構築した平

田篤胤という人の思想を、さまざまな角度から考えることになりました。私が論文で発表するような専門領域は限られていますが、関心の根っこには、さまざまな宗教が人の死や生き方をどうとらえているかという問題がずっとあります。

ゼミでは宗教と死生観についてテーマにすることも多く、参加する学生の中にも、日本や世界のいろいろな宗教の死生観や世界観などを研究対象に選び、発表したり演習論文を書いたりする人が少なくありません。

私ひとりで研究できる対象は限られているのですが、学生のみさんが多様なテーマについて発表したり論文を書いたりするのに触れると、そのつど新たな知見が開かれる感覚で、いつも心が満たされます。

江戸時代の国学者・平田篤胤を通して、日本人の死生観を探求しています





観月祭の感動！



入学前から、日本の伝統文化に興味がありました。「日本文化のルーツは神道。専門の大学でしっかりと学ぼう…」。そう考えて、神道文化学部への進学を決めたのです。入学早々、祭式サークル「瑞玉會」に入会しました。祭式作法や雅楽・舞・衣紋など、神事に関わる必須のスキルを身に付けました。さらに大学神殿での祭典をお手伝いする中で、ご神前での実地経験を積み重ねることができました。

2年次になった頃から、コロナ禍での学生生活を余儀なくされました。授業の遠隔化はもちろん、サークル活動にも厳しい制限がかかりました。けれども、私たちは、それを理由に決して諦めることはしませんでした。「観月祭、成人加冠式、若木祭での神輿渡御…。先輩方から受け継いだ学部の伝統行事を、決して絶やしてはならない…」そんな思いで、仲間たちと知恵を出し

合いました。学生たちの不屈の努力、また先生方、職員の方々の温かいご支援を得て、わが学部ならではの古式豊かな行事が、徐々に復活していったのです。

4年次に入って、コロナ禍前と同様、観客を入れての観月祭がいよいよ斎行の運びとなりました。私はその中で、御神楽「人長舞」を舞わせていただきました。入学以来の憧れであった観月祭、その晴れの舞台に、4年間の集大成として、最後の最後で立つことが出来たのです。それは私にとって、学生生活最大の「感動体験」でした。

國學院大学で過ごした4年間で得た沢山の学びと経験は、私のかけがえない宝物です。卒業後も、大学での学びを心に刻み、神社界に貢献できるように邁進して参りたいと願っております。



下岡 紗耶加 さん

神道文化学部4年
奉職内定

下岡さんはこんなゼミ生！
ゼミ担当
大道 晴香 助教



下岡さんは、演習論文で先行研究の少ない難しい題材に挑み、現代文化とメディア環境や伝統宗教との関わりを、試行錯誤しながら懸命に探究しておりました。発表時に繰り出される私からの厳しい注文にもしっかりと応え、授業外にも自主的に相談に訪れるなど、熱心に研究に取り組んでいたと思います。



大道 晴香 助教

現代の宗教文化とマスメディア

大道先生はこんな先生！
ゼミ生
下岡 紗耶加 さん



3年次から始まる基幹演習では、大道先生のゼミに入りました。大道ゼミでは、パワースポットや都市伝説等々、様々な側面から「現代における宗教の実態」を研究する学生たちが切磋琢磨しています。大道先生は、学生の一人一人に真摯に向きあい、いつも懇切なご指導を行ってくださいました。



「宗教」と聞いて、あなたは何をイメージするでしょうか。日本で意識調査を行うと、7割くらいの方が「自分は無宗教だ」と答える傾向にあります。これは、教祖や教団を想定しがちな、「宗教」という語が持つイメージの偏りに由来するところが大きいように思われます。しかし、毎年多くの方が社寺で初詣を行い、お盆にはお墓参りをしているように、宗教は決して私たちの日常と無関係な存在ではありません。

近年流行しているエンターテインメント・コンテンツにも、実在の神話や世界観が多用されていることは、皆さんもよくご存じでしょう。情報化社会と言われる現代社会では、メディアを経由して、無意識のうちに宗教文化に触れていることも少なくありません。こうした目で周囲を見まわしてみますと、私たちの身の回りには、実はたくさんの宗教文化が存

在していることが分かります。

宗教学は、世界三大宗教から、生活に溶け込んだ「〇〇教」と名のつかない現象まで、幅広く扱うことのできる非常に柔軟性の高い学問です。例えば、「宗教とマスメディア」を研究テーマとする私の場合、これまでに新聞・雑誌・マンガ・小説・映画・ライトノベルなどを対象に、大衆文化の中の宗教的なもののイメージについて探究してきました。こんな身近な対象が、宗教を知るうえで役立つ？と疑問に思った方もいるかもしれません。しかし、何気ない日常の一部だからこそ、そこには生き生きとした文化の姿が見とれるのではないのでしょうか。

大学での学びを通じて、身近にありながらもまだ見えていない「新たな世界」を探してみませんか。

大学での学びを通じて、異なる世界を探索してみませんか。



國學院大学の奨学金制度

1年次は 全員支給	返済不要 神道・宗教 特別選考新入生対象	神職子女奨学金 ……[1年次生] 自宅外通学者40万円/自宅通学者20万円支給(全員) ……[2年次以上] 自宅外・自宅通学者ともに10万円支給(学業成績の上位20名以内)
夜間主学生対象 返済不要	國學院大学フレックス特別給付奨学金 ……400,000円	
神社界からの奨学金	神社本庁育英奨学金 ……30万円支給(2年生以上) 返済不要 ※条件あり 伏見稲荷大社奨学金 ……24万円支給 返済不要 ※条件あり 全国敬神婦人連合会育英奨学金 ……15万円支給(女子学生のみ、2年生以上) 返済不要 ※募集されない場合があります	

詳しくは本学ホームページ「入試情報に関するお知らせ」でご案内します。 <http://www.kokugakuin.ac.jp/admission/nyugaku0300166.html>



柏木 亨介 助教

「民俗学」「文化人類学」

柏木先生はこんな先生!

ゼミ生 林 晃佑 さん



柏木先生は、学生に寄り添った指導をしてくださる素敵な先生です。調査・研究に取り組む中で、先生のご経験や幅広い知識に基づく、たくさんの貴重な助言を頂戴しました。

私は民俗学的な視点から神社や祭祀について研究しています。例えば、農家の方が田んぼで田の神を祀って豊作を祈願したり、屋敷に氏神様を祀って家の繁栄を祈願したりするといった、民間の祭祀に着目しています。これらは統一された祭式や祭日ではなく、農耕の折り目や生活の節目に際して、先代から伝えられたかたちで、自分たちの手で祭りを行っています。日本列島の多様な自然環境のなかで暮らしてきた人々によって育まれ、伝えられてきた、大切な文化です。

そもそも人が生きていくにあたっては、周囲の自然環境を利用して食物をはじめ何らかの資源を得なくてはなりません。そこには人々との協働、すなわち社会が必要です。しかし、私たちが豊かな暮らしを送ろうとすればするほど、社会は高度化、複雑化し、今では社会を生き抜くための知恵や技術が必要となってしまいました。

人は人との関係に悩み続けることになり、そこから倫理や道徳、宗教といった叡智が生じます。社会の諸課題は

人々が作り出したものです。その解決に科学技術を用いるにしても、具体的にいつ、どこに用いればよいか分からないといけませんから、その根本的な解決には人の思考と行動パターンの正確な把握が必要でしょう。民間祭祀の私的で伝承的な性質は、以上の課題を考えるうえで重要な論点なのです。

私のゼミでは卒業後のキャリアを見据えた指導を行っています。まず、研究書を精読して学術研究としてのものの見方や考え方を把握するとともに、先行研究では見落とされてきた諸問題について議論します。そして、各自が設定した研究テーマに関するデータを実地において収集し、レポートにまとめていきます。つまり前例の知見と課題を把握し、関連のデータを収集し、データ間の相関関係などを分析し、論理的説明を与えます。

大学では「何を」学ぶかも大切ですが、「どのように」学ぶかも同じくらい大切です。一緒に考えていきましょう!

日本列島の多様な祭礼文化を、一緒にリサーチしよう!

「神道文化学部生だからこそ、「話題の引き出し」が他の学生より1つ多い!」
そう考えて、就活に前向きで取り組むことができました



林 晃佑 さん

神道文化学部 4年
一部上場企業内定

林さんはこんなゼミ生! ゼミ担当 柏木 亨介 助教



林さんは、他の学生の発表内容や周囲のコメントを自分のこととして受け止め、それを自身の研究にフィードバックさせていました。その優れた観察力と対応力は、就職活動にも活かしていたのではないかと思います。今後の活躍を信じて疑いません。



私はもともと神社とは無縁の高校生でした。そんな私が、神道文化学部に進学した理由は、高校時代、オーストラリアでホームステイをしたことがきっかけです。異国の宗教文化に実際に触れてみて、日本とは全く異なる宗教文化に驚き、関心を抱きました。

それと同時に、自国の文化について全くの無知であることにも気づき、日本の宗教文化を見つめ直したいという思いが強くなりました。その経験から、大学受験に際して、日本の宗教文化の根幹にある神道を学べるほか、世界のさまざまな宗教文化も幅広く学ぶことができる神道文化学部に進学することを決意したのです。

神道文化学部は、神職の奉職を志す学生が多く進学しますが、私のように日本や世界の宗教文化に興味を持って進学してくる学生もたくさんいます。入学後すぐアイスブレイクがあり、自分と同じ興味関心を持つ仲間に出会える機会が用意されていました。4年間、日々の授業で助け合いながら、宗教文化の知識を深めていくことができました。

私が最も印象に残っている授業は、3年次から始まる基幹演習(ゼミ)です。私は、身近な宗教文化であるお墓や供養塔などの石造遺物について研究しました。このテーマを選んだきっかけは、お墓をよく見ると、造られた年代、形、大きさなどの特徴がひとつひとつ異なることに、何か隠された意味があるのではないかと思ったからです。

お墓の特徴を分類し、傾向を分析することで、そのお墓を造った時代の人々が大切にしたいものを明らかにしようと、研究に没頭しました。演習は、自らの疑問にとことん向き合える貴重な経験であり、これから社会に出て仕事をする上でも役に立つスキルを学ぶことができました。

私は、入学当初から一般企業への就職を考えていたこともあり、早い段階から準備を進めていました。神道文化学部生ということが或いは弱点になるのではないかと若干の不安も抱えていましたが、3年次になっていざ就職活動を始めてみると、神道文化学部だからと言って不利になることは、全くありませんでした。

むしろ「神道文化学部というユニークな学部だからこそ、話題の引き出しが他の学生より1つ多い!」と考え、前向きで就活に挑むことができました。その結果、第1志望の企業から内定をいただくことができました。内定先は、人々の日常生活を支えつつ、環境保護を大切にしている企業です。私は、神道文化学部に入學して、自分が本当に学びたい学問に向けて、大学4年間という大切な時間をかけることができました。本当に良かったと実感しています。

後輩の皆さんに伝えたいこと。それは、将来の選択肢は、自分次第で、いくらでも切り拓いていくことができるということです。皆さんのご活躍を、心より応援しています!

